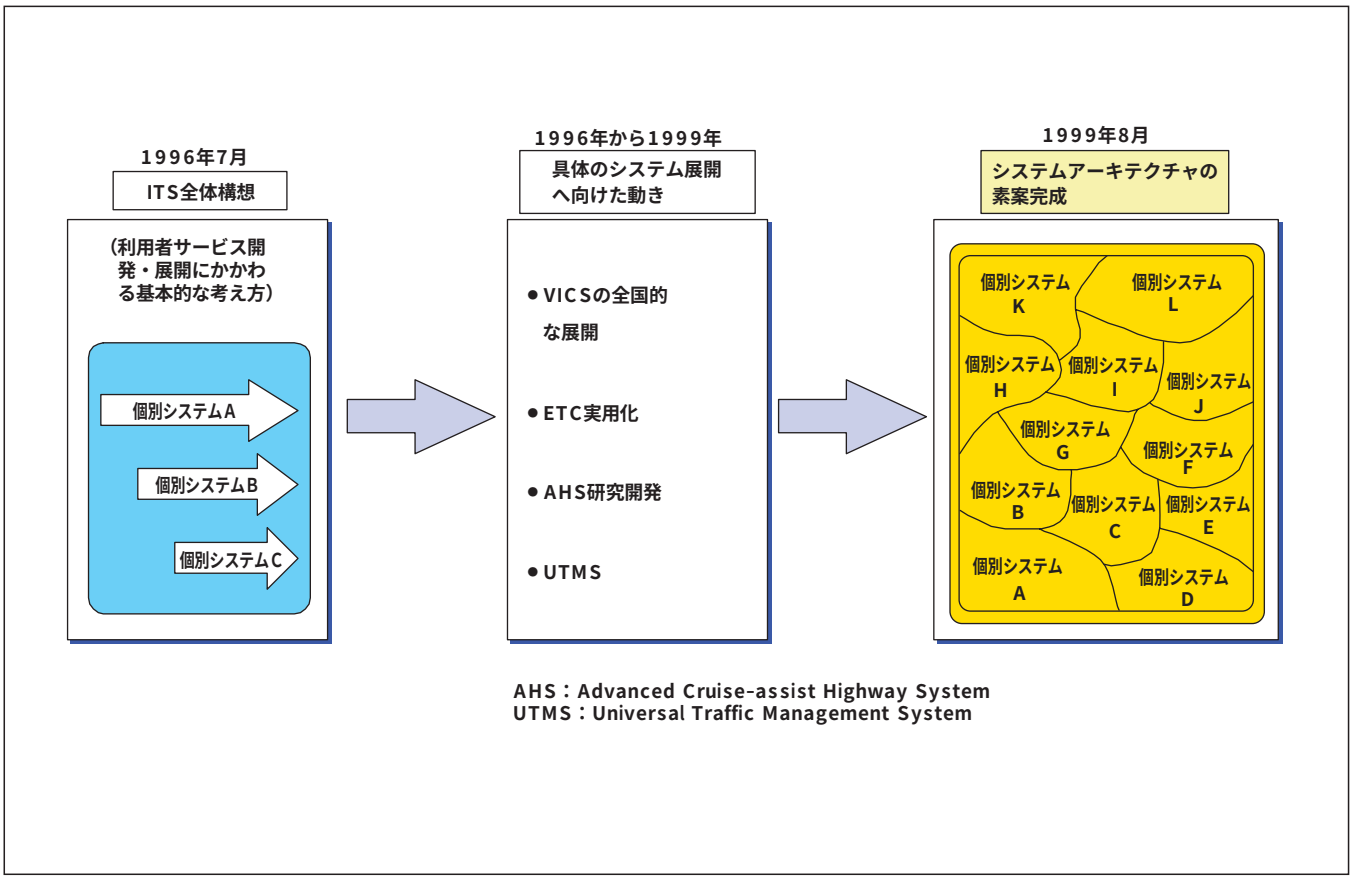
システムアーキテクチャ

播口正雄*

要　旨

ITS(Intelligent Transport Systems：高度道路交通システム)は，インフラから車載機まで，非常に広範囲のシステムを含んでいる。将来にわたってITSを総合的・効率的に整備していくには，システムアーキテクチャが不可欠である。日本では，1996年に策定された「ITS推進に関する全体構想」を基に，98年から警察庁，通商産業省，運輸省，郵政省，建設省のITS関係５省庁がVERTIS(道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会)の協力を得て，システムアーキテクチャ構築に向けた具体的な活動を行っている。一方欧米における動向では，米国は96年７月にシステムアーキテクチャを完成させ，欧州は98年から汎欧州のシステムアーキテクチャ構築作業を開始した。またアジアにおいても，韓国が98年12月に初版を完成させた。

本稿では，システムアーキテクチャ構築に関する日本及び海外の最新動向を紹介する。なお，海外の調査内容は，98年度にVERTISが㈶自動車走行電子技術協会から委託を受けて行ったITSシステムアーキテクチャの海外調査結果を基にしている。



日本のシステムアーキテクチャ策定の背景

日本では，1996年７月「ITS推進に関する全体構想」を策定し，長期ビジョンとしてのITSの全体像(利用者サービス，開発・展開にかかわる基本的な考え方，マイルストーン等)を明確化した。日本のITSは，この全体構想に基づき，既にニーズの高いVICS(Vehicle Information and Communication Sytem)やETC(Electronic Toll Collection System)など一部のシステムにおいて実用化がなされているが，更に多様なシステムを効率的に構築するためには，システム全体を見渡すためのツール(システムアーキテクチャ)が必要となる。

*VERTIS(道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会)(三菱電機㈱から出向)